

工場廃液の水銀から

水俣病の原因 厚生省側委員も断定

水俣病の原因が有機水銀であることには間違いないと文部省の熊本医学部水俣病特別研究班が発表しており、厚生省の諮問機関である水俣食中毒部会委員の後藤源太郎熊本理学部教授「生物学教室」も二十三、新日窒水俣工場から排出される水銀が原因である」とつぎのように新定した。

工場の廃液を海に放出する排水口付近の海底の下口には〇・二%の無機水銀が含まれ、ドロは酸化した水銀で真つ黒になっていくほどだ。地中の無機水銀をエビやゴカイが吸収し、これらの生物を魚が食ひ、この過程のなかで無機水銀は有毒な有機水銀に変つていく。また付近に生息する魚自体もだに体内に有機水銀を蓄積する。

水銀は新日窒水俣工場が昭和二十八年から鉛化ビニールの触媒に使っているもので、患者も二十八年から発生している。工場では他県にも鉛化ビニールの生産工場があるにもかかわらず、被害者は出ていないとして私たちの説を疑問視しているが、廃液を湾などに放出する場合と潮

流の速いところに放出する場合とでは事情がちがう。また他の工場では廃液の洗でん池をつくっているところもある。

なお水俣食中毒部会では厚生省からの本年度研究予算百万円がまだ配分されないとことから、二十三日県にさし当り十五万円を立て替

えを要望、沢田総務部長もこれを了承した。これで同大学理学部の地理学、物理学、生物学の三教室は近く排水口付近の下口や潮流、魚などについてさらに研究を進める。